



## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名：	猪名川町地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内ファイダーシステム確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>猪名川町は兵庫県の南東部、大阪府と兵庫県の府境に位置する人口約30,000人の小さな町であり、総面積90.33km<sup>2</sup>の約8割を森林が占める自然豊かな町である。町外へのアクセスは能勢電鉄株が運行する鉄道や平成30年に開通した新名神高速道路での移動手段があり、比較的便利な立地となっている。一方で、南北に18kmと長い町域を有するものが特徴の本町では、南北を結ぶ幹線道路を阪急バス株の路線バスが運行しているが、少子高齢化に伴う利用者の減少やバスの運転士不足により、安定的な路線の維持が難しく、減便が繰り返されている現状である。</p> <p>阿古谷・松尾台地区においても路線の維持が難しいとバス事業者から協議の申し入れのあった地区である。そのため、住民の通院・買い物を中心とした生活に不可欠な移動手段を確保するための一つの方策として、町内交通事業者と協議の上、令和2年5月からデマンド交通を模索してきたところである。</p> <p>実証実験にてデマンド交通という予約の必要な乗り物への受容性、料金の妥当性など検証を行い、令和4年4月から道路運送法第4条に基づく本格運行を実施しており、地域公共交通確保維持事業により、当該エリアの移動手段を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p>

## 猪名川町地域公共交通会議（ネットワーク全体の評価）

## 1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

## 公共交通の将来像

## 【地域特性】

人口：29,570人（令和4年12月末現在）

高齢化率：32.3%（令和4年12月末現在）

面積：90.33平方キロメートル

- ・町域は東西に約8km、南北に約18kmと南北に細長い形状
- ・町最北部に位置する大野山（標高753m）を源流とする猪名川が町の中央を北から南へ流れ、その周辺に集落が形成されており、町の南部の丘陵地では民間事業者による大規模住宅地開発が行われ、市街地を形成

## 【猪名川町地域公共交通計画】

## 基本方針と計画目標

基本方針：元気に安心して暮らせる魅力あるまちづくりを支える持続可能な公共交通を構築

## 1. 計画目標

- ①：まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの形成
- ②：わかりやすく・利用しやすい地域公共交通環境づくりの推進
- ③：住民・事業者・行政等の多様な関係者との連携による持続可能な地域公共交通の実現

## 2. 計画期間

- ・令和4年度（2022年度）から令和8年度（2026年度）までの5年間

## 3. 計画の区域

- ・猪名川町全域

## 4. 公共交通の将来像

- ・現状の運行状況や役割を踏まえ、「広域基幹交通」、「町内基幹交通」、「生活交通」に機能分類し、階層的なネットワークを構築
- ・また、「乗継拠点」を設けることで、広域基幹交通、町内基幹交通、生活交通の接続性を高め、効率的で効果的なネットワークの形成を目指す

## ●猪名川町における公共交通の役割分担と位置付け

機能分類	役割	対象
広域基幹交通	○ 町内と周辺市町を結ぶ町の骨格を形成するために重要な機能を担い、広域的な公共交通の軸として、通勤・通学等住民生活を支える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道（能勢電鉄：日生線）</li> <li>・路線バス（阪急バス：杉生線（清和台系統）、猪名川パークタウン線、つつじが丘線）</li> </ul>
町内基幹交通	○ 町内の都市拠点や集落拠点間を結ぶ町内の骨格を形成し、町内各地域と猪名川町中心部等とのアクセスに重要な役割を担い、住民生活を支える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バス（阪急バス：杉生線（杉生系統）、日生ニュータウン線）</li> </ul>
生活交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 路線バスが乗り入れ困難な地域の生活圏内の移動を支え、猪名川町中心部及び基幹交通（広域基幹交通・町内基幹交通）へのアクセス手段として機能を担い、住民生活を支える。</li> <li>○ デマンド交通「チョイソコいながわ」は、コミュニティバス「ふれあいバス」では対応しきれない需要が分散・少ない地域を補完する役割や移動が困難な交通不便地域の解消を担う交通モードの役割を担い、住民生活を支える。</li> <li>○ タクシーは、他の公共交通機関が運行していない時間帯をはじめ地域住民及び来訪者等の移動ニーズに応じたドアtoドアの輸送が対応可能な移動手段であることから、猪名川町の公共交通機関として位置付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバス「ふれあいバス」</li> <li>・デマンド交通「チョイソコいながわ」</li> <li>・タクシー</li> </ul>
乗継拠点	○ 広域基幹交通、町内基幹交通及び生活交通間の乗継拠点で、待合空間の整備・乗継ぎ情報等機能強化を図るべき拠点として位置付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日生中央</li> <li>・紫合・南田原地区周辺</li> <li>・杉生</li> <li>・六瀬総合センター前</li> </ul>

## ●猪名川町における乗継拠点の考え方

乗継拠点	役割	想定する対象交通
日生中央	○ 町内と周辺市町を結ぶ町の骨格を形成する機能を担う広域基幹交通をはじめ、町内基幹交通及び生活交通が結節する交通機能を担う。また、猪名川町の中心部としての地域の拠点・賑わい機能やサービス機能としての役割も担う。	【広域基幹交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道（能勢電鉄：日生線）</li> <li>・路線バス（阪急バス：杉生線（清和台系統）、猪名川パークタウン線、つつじが丘線）</li> </ul> 【町内基幹交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バス（阪急バス：杉生線（杉生系統）、日生ニュータウン線）</li> </ul> 【生活交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバス「ふれあいバス」</li> <li>・デマンド交通「チョイソコいながわ」</li> <li>・タクシー</li> </ul>
紫合・南田原地区周辺	○ 町の北部地域（大島小学校区及び楊津小学校区）への玄関口に位置し、町内と周辺市町を結ぶ広域基幹交通と北部地域を結ぶ町内基幹交通や生活交通が結節する交通機能を担う。	【広域基幹交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バス（阪急バス：杉生線（清和台系統）、猪名川パークタウン線、つつじが丘線）</li> </ul> 【町内基幹交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バス（阪急バス：杉生線（杉生系統）、日生ニュータウン線）</li> </ul> 【生活交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバス「ふれあいバス」</li> <li>・タクシー</li> </ul>
杉生・六瀬総合センター前	○ 路線バスが乗り入れ困難な地域の生活圏内の移動を支える生活交通と、猪名川町中心部等へアクセスする町内基幹交通との乗継拠点の機能を担う。	【町内基幹交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バス（阪急バス：杉生線（杉生系統））</li> </ul> 【生活交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバス「ふれあいバス」</li> <li>・デマンド交通「チョイソコいながわ」</li> </ul>

※町の考え方を示したものであり、交通事業者との協議・調整が必要である。

## 公共交通ネットワークのイメージ図

※別添で添付して下さい。

## 2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

### 評価指標と目標値

- ・ 目標の達成に向けて実施する施策について、施策実施による効果が発現しているか確認し、状況に応じてスケジュールや施策内容等の見直しを実施
- ・ 住民に対して、計画の取組み状況を伝えるとともに、利用者の立場として積極的に公共交通を利用する意識の醸成を図る
- ・ 事業実施主体にとって、計画の中における施策の効果を確認し、さらなる施策実施に向けたモチベーション（動機づけ）とする
- ・ 「指標の明示化」（施策・事業の実施により発生する効果・成果を表すアウトカム指標など）が求められるため、可能な限り定量的で分かりやすい指標を設定

	評価指標	現況値(年次) 目標値(目標年次)
基本方針	公共交通利用者数	現況値: 19,729人/日(R1) 目標値: 16,422人/日(R8)
計画目標①	広域基幹交通及び町内基幹交通の利用者数	
	鉄道乗降者数(日生中央駅)	現況値: 10,623人/日(R1) 目標値: 8,842人/日(R8)
	路線バス乗降者数(町内停留所)	現況値: 8,864人/日(R1) 目標値: 7,378人/日(R8)
	財政投入を行っている公共交通事業の収支率	
	コミュニティバス「ふれあいバス」	現況値: 1.6%(R2) 目標値: 25.0%(R8)
	デマンド交通「チョイソこいながわ」	現況値: 16.3%(R3.9) 目標値: 25.0%(R8)
計画目標②	利用環境づくりの取組み実施項目数	現況値: 4件(R3) 目標値: 8件(R8)
	高齢者の運転免許証自主返納者数	現況値: 363人/年(R2) 目標値: 500人/年(R8)
	路線バスにおける定期券の保有者数	現況値: 1,577人(R3) 目標値: 1,455人(R8)
計画目標③	公共交通利用促進に係る取組み実績数	現況値: 3件(R3) 目標値: 6件(R8)

### 3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

#### (1) 取組経緯

デマンド交通チョイソコいながわは、令和4年4月1日からの本格運行から、利用促進施策として顔認証決済システムを活用した利用回数割引を実施し、また、小人割引や障がい者割引を導入するなどの利用促進策を導入している。

また、チョイソコいながわの事業主体であるネッツトヨタ神戸が、チョイソコ予約センターを日生中央駅前にある商業施設内に構えているが、その一部をチョイソコいながわの予約時間までの待ち時間を過ごしていただける待合スペースとして開放するなど、利用者の利用環境向上に努めている。

#### (2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

##### 補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
チョイソコいながわ	猪名川町	R4.4.1～	フ	デマンド交通チョイソコいながわの運行（阿古谷・松尾台地区）

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業  
利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

##### 非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
チョイソコいながわ	猪名川町	R4.4.1～	デマンド交通チョイソコいながわの運行（大島地区）
コミュニティバス「ふれあいバス」	猪名川町	H12～	コミュニティバスふれあいバスの運行（町全域）

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標

4. 具体的取組に対する評価

地域公共交通計画に記載のとおり、町内の公共交通の機能分類として、広域基幹交通及び町内基幹交通、生活交通の3つに分類しており、生活交通に位置付けているデマンド交通チョイソコいながわを地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の活用をもって実施することで、生活圏内における移動の利便性を向上させ、まちの賑わいの創出をはかろうとするものである。

チョイソコいながわは、令和4年4月1日に本格運行を開始し、各種運賃割引制度などの導入を行うことで利用の促進に努め、交通不便地域である阿古谷・松尾台地区で令和4年度上半期だけで4,000人以上の利用があり、多くの住民の移動の支えとなっており、地域公共交通計画に規定する生活圏内における移動の利便性の向上に寄与しているものとする。

また、チョイソコいながわは幹線道路上までの停留所間の移動を担っているため、路線バスや鉄道への乗り換えを前提としており、その乗り継ぎ環境向上のため、チョイソコいながわのコールセンターの一部を待合スペースとして開放するなど、利用者が利用しやすい環境づくりに事業者主体で取り組んでいる。

しかしながら、財政投入を実施している公共交通事業の収支率を見ると、チョイソコいながわ及びコミュニティバスのいずれも地域公共交通計画に定める目標値には達していないため、今後においても目標達成に向けて利用促進を図っていく必要がある。

## 5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
<p>地域公共交通計画には数値目標として財政投入を行っている公共交通事業の収支率を25%とするとしているが、コミュニティバス「ふれあいバス」及びデマンド交通「チョイソコいながわ」のいずれも目標値には達していない。</p>	<p>持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指し、利用のしやすい路線（運行エリア）やダイヤ等を検討することに加え、利用促進に向けた取り組みなどを検討する。</p>



猪名川町地域公共交通会議（これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針

2. アピールポイント、特に工夫した点など